

令和6年5月17日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。また、【 】内の数値は左側が4月下旬～5月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値(過去10年の平均値)を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ(※)の「総合防除の内容」を参照するとともに、2ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

千葉県総合防除計画(令和6年3月版)



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (4月下旬～5月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イ ネ	いもち病 (葉いもち)	並	苗発病度：並【0.00/0.00】 気象予報：気温高(-) 降水量並 日照時間並	17
	ばか苗病	並	苗発病度：並【0.85/0.65】	18
	イネミズゾウムシ	並	成虫寄生株率：並【2.29%/2.01%】 4月予察灯誘殺数：並【22.7頭/25.2頭】	19
	イネドロオイムシ	やや多	成幼虫蛹寄生株率：やや多【0.29%/0.12%】(+) 雑草地すくい取り捕獲成虫数：並【0.13頭/0.39頭】 気象予報：降水量並	19
	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	やや多	1㎡当たり貝数：並【0.18頭/0.20頭】 被害株率：多【1.14%/0.29%】(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並	19
	ヒメトビウンカ	やや多	2月畦畔3㎡吸い取り成幼虫数：多【4.74頭/1.79頭】(+) 雑草地すくい取り捕獲成幼虫数：並【0.00頭/0.01頭】	21
	イネクロカメムシ	並	2月畦畔0.25㎡土壌中成虫数：やや少【0.01頭/0.07頭】(-) 4月予察灯誘殺数：多【3.0頭/0.8頭】(+)	-

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (4月下旬～5月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
スイカ	うどんこ病	並	発病葉率：並【0.00%/0.04%】 気象予報：降水量並 日照時間並	-
	アブラムシ類	やや多	寄生葉率：やや多【1.80%/0.66%】 (+) 気象予報：気温高 (+) 降水量並	41
	ハダニ類	やや多	寄生葉率：並【0.60%/0.54%】 気象予報：気温高 (+) 降水量並	-
ナシ	黒星病	並	発病果率：並【0.15%/0.19%】 発病葉率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：降水量並	24
	アブラムシ類	並	寄生新梢率：並【0.44%/1.06%】 気象予報：気温高 (+) 降水量並	24
温州ミカン	そうか病	多	発病葉率：多【1.60%/0.10%】 (+) 気象予報：気温高 (+) 降水量並	26
	ミカンハダニ	やや多	成虫寄生葉率：やや多【8.40%/5.88%】 (+) 気象予報：気温高 (+) 降水量並	28
ビワ	灰斑病	やや多	発病葉率：やや多【4.00%/2.18%】 (+) 気象予報：気温高 (+) 降水量並	-
果樹共通	カメムシ類	多	桜樹払い落とし捕獲成虫数：並【1.10頭/1.36頭】 フェロモントラップ誘殺数：多【5.43頭/0.78頭】 (+) 気象予報：気温高 (+)	28

* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

* 2 予察灯誘殺数：1か月30日当たりの誘殺数

1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) スクミリンゴガイ（イネ）
千葉県 HP、環境農業推進課の「[ジャンボタニシ被害防止対策](#)」も参照する。
- (2) うどんこ病（スイカ）
令和6年度病害虫発生予報第1号P3「[これから注意を要する病害虫](#)」も参照する。
- (3) 黒星病（ナシ）
令和4年度病害虫発生予報第2号P6「[これから注意を要する病害虫](#)」も参照する。
- (4) カメムシ類（果樹共通）
令和6年度病害虫発生予察注意報第1号「[果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）越冬後成虫多発生のおそれ](#)」も参照する。



Ⅱ これから注意を要する病害虫

イネカメムシ

県内3地点（千葉市・香取市・南房総市）に設置している予察灯において、斑点米カメムシの一種であるイネカメムシ（写真1）が2018年頃から多く誘殺されている（図）。

本種は、主に出穂期に籾の基部を加害し、基部斑点米（写真2）による米の品質低下や、不稔（写真3）による減収をもたらす。

また本種は、稲への嗜好性が高いため、越冬場所（林縁の落葉下等）から、成虫が直接、出穂直後の水田に飛来して加害する。このため、出穂始期に本種の飛来を確認したら、ただちに次ページの表を参考に薬剤防除を行う。なお、従来の斑点米カメムシ類の防除適期（穂揃期から乳熟期後半）は、不稔防止を目的とした本種の防除時期としては遅いので注意する。

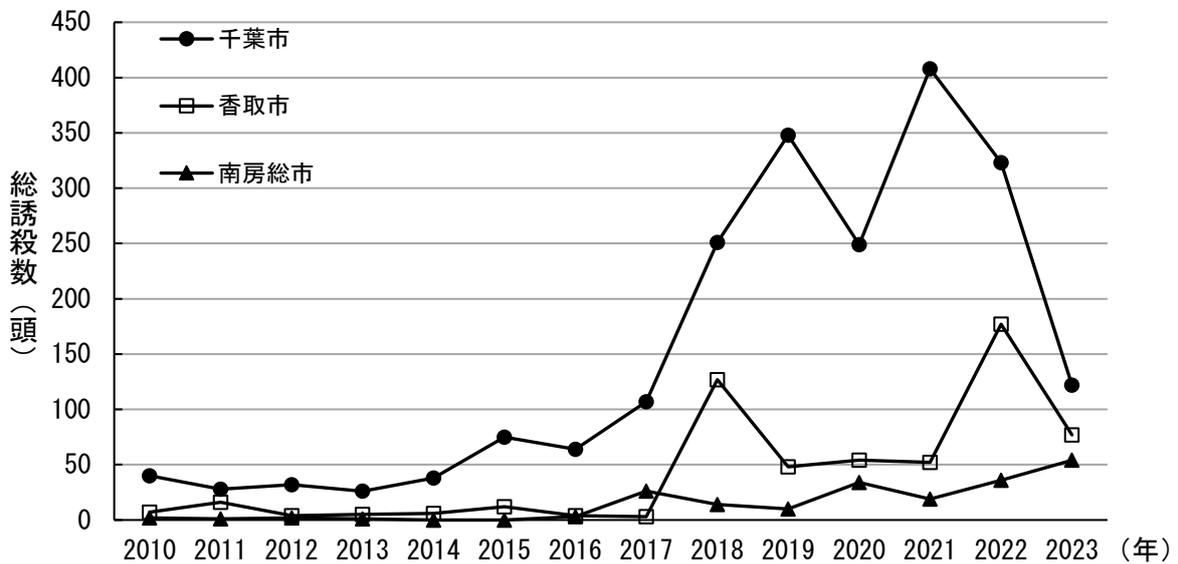


図 予察灯におけるイネカメムシ総誘殺数の推移
（場所：千葉市・香取市・南房総市、期間：4～9月）



写真1 イネカメムシ成虫・幼虫



写真2 基部斑点米



写真3 加害による被害穂
（青立ちした穂）

<防除対策>

- 1 水田の見回りや地域の発生状況から、本種の発生量が多いと判断した場合は出穂始期に薬剤防除する。
- 2 周囲よりも「出穂の早い水田」や「特に遅い水田」は集中的に加害される可能性があるため、特に発生に注意する。

表 イネカメムシに対する主な防除薬剤（令和6年5月7日現在）

IRAC コード ※1	薬剤名	希釈倍数・ 使用量	使用時期	使用回数 ※2
1 B	スミチオン乳剤	1,000 倍	収穫 7 日前まで	2 回以内
	スミチオン粉剤 3 D L	3 ~ 4 kg/10 a	収穫 21 日前まで	2 回以内 (出穂前散布 は 1 回まで)
2 B	キラップフロアブル	1,000~2,000 倍	収穫 14 日前まで	2 回以内
	キラップ粉剤 D L	3 ~ 4 kg/10 a		
	キラップ粒剤	3 kg/10 a		
3 A	トレボン粉剤 D L	3 ~ 4 kg/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内
	トレボン M C	2,000 倍	収穫 14 日前まで	
4 A	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	2,000 倍	収穫 7 日前まで	3 回以内
	スタークル/アルバリン 粉剤 D L	3 kg/10 a		

※1 IRAC（殺虫剤抵抗性対策委員会）コード：殺虫剤の作用機構の分類を表すものである。

1 B：有機リン系

2 B：フェニルピラゾール系

3 A：合成ピレスロイド系

4 A：ネオニコチノイド系

※2 薬剤名が異なっても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

Ⅲ 参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：4月中旬～5月上旬、スイカ：5月上旬、果樹：4月下旬、果樹カメムシ類：5月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病	苗の発病度	0.00	0.00	0.00	
	もみ枯細菌病	苗の発病度	0.00	0.25	0.14	
	苗立枯病	苗の発病度	1.33	0.27	0.00	
	ばか苗病	苗の発病度	0.85	0.65	1.29	
	イネミズゾウムシ	成虫寄生株率(%)	2.29	2.01	1.56	
		雑草地すくい取り成虫数	0.27	0.51	0.44	
	イネゾウムシ	成虫寄生株率(%)	0.17	0.09	0.00	
		被害株率(%)	1.77	0.29	0.25	
	イネドロオイムシ	成幼虫蛹寄生株率(%)	0.29	0.12	0.19	
		雑草地すくい取り成虫数	0.13	0.39	0.21	
スクミリンゴガイ	1㎡当たり個体数	0.18	0.20	0.19		
	被害株率(%)	1.14	0.29	0.69		
	ヒメトビウンカ	畦畔3㎡吸い取り成幼虫数	4.74	1.79	2.23	2月調査
		雑草地すくい取り成虫数	0.00	0.01	0.01	
	イネクロカメムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.01	0.07	0.06	2月調査
スイカ (山武・印旛)	つる枯病	発病葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率(%)	0.00	0.08	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	1.80	0.66	1.20	
	ハダニ類	成虫寄生葉率(%)	0.60	0.54	1.80	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
		発病果率(%)	0.15	0.19	0.91	
	赤星病	発病葉率(%)	0.00	0.01	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率(%)	0.06	0.03	0.03	
	ハダニ類	成虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.44	1.06	0.41	
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.32	0.02	0.08	
	かいよう病	発病度	0.00	0.04	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率(%)	8.40	5.88	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	4.00	2.18	6.75	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.30	0.00	
果樹共通	果樹カメムシ類(安房)	サクラ樹払い落とし虫数	1.10	1.36	0.43	頭/網

トラップ月間誘殺数(4月) *種類別の単位の違いに注意

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数(*)			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	22.7	25.2	6.0	頭/月
	イネクロカメムシ	〃	3.0	0.8	0.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	4.0	0.7	0.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	20.0	0.3	1.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	6.0	2.4	4.0	
	カメムシ類	〃	30.0	3.4	5.0	
性フェロモン	コナガ	海匝	2.1	2.7	2.4	頭/日
	ハスモンヨトウ	県内全域	1.0	0.8	0.6	
	シロイチモジヨトウ	安房	0.4	0.0	0.0	
	オオタバコガ	県内全域	0.3	0.4	1.4	
	タバコガ	県内全域	0.0	0.0	0.0	
	ナシヒメシンクイ	印旛	6.6	1.2	1.4	
	モモシンクイガ	印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	印旛	6.6	1.2	1.4	
	チャハマキ	印旛	1.0	1.1	2.0	
	チャノコカクモンハマキ	印旛	2.3	0.8	1.4	
ハマキムシ類	印旛	3.3	1.8	3.4		
チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	4.4	0.6	0.4	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	0.8	0.1	0.0	
	クサギカメムシ	〃	0.3	0.1	0.1	
	カメムシ類	〃	5.4	0.8	0.5	
	マルボンヒラタヤドリバエ(天敵)	〃	0.4	0.4	0.2	

○気象予報

5月16日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

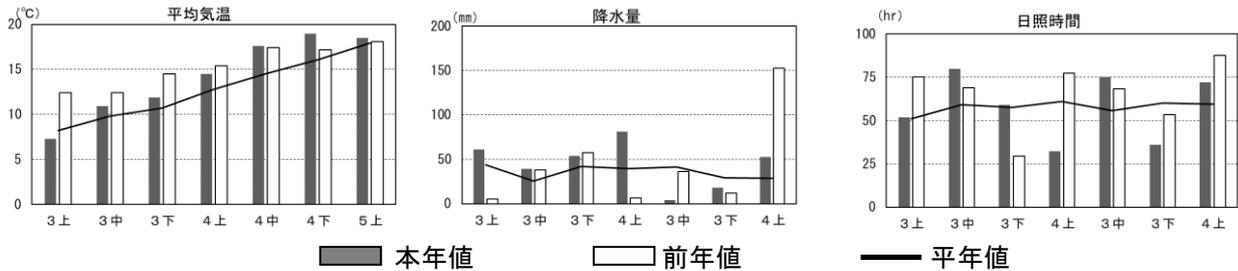
向こう1か月間の各気象要素の平年値

(5月18日～6月17日)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	20	70
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	20.6	19.0	20.2
降水量(mm)	142.6	159.3	187.2
日照時間(hr)	161.3	177.1	168.0

出典：気象庁ホームページ



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・ 次回の発行予定は6月18日です。

なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

